

北海道ポーランド文化協会  
活動年表 2004～2014年

\*は協会の行事ではないが、会誌 POLE などで紹介された関連行事

日付 行事(講師/出演者、場所) 参加者数など

## 2003年

- 3.26, 5.7, 5.28, 6.18, 7.22, 9.3  
創立 15 周年記念誌編集委員会  
12.25 創立 15 周年記念誌出版

## 2004年

- 2.6 創立 15 周年記念誌出版記念祝賀会(すみれホテル)  
5.1 〈第 47 回例会〉フランス時代のショパンとその作品  
(お話:三浦洋さん、ピアノ演奏:小林美保さん、  
片寄ますみさん、ウィリアムス美由紀さん、北海道  
立近代美術館エントランスホール)参加者約 150  
人  
6.1 POLE 第 54 号発行  
8.1 POLE 第 55 号発行  
8.21 〈第 48 回例会〉キスリングとその時代のパリ(お話:  
近代美術館主任学芸員 中村聖司さん、北海道  
立近代美術館エントランスホール)参加者約 15 人  
10.28 〈第 18 回総会&懇親会〉(北海道立道民活動セ  
ンター「かでの2・7」)懇親会参加者 24 人、うち札  
幌在住のポーランド人7人

## 2005年

- 3.11 2005 年度第1回運営委員会(事務局長は小笠原  
正明さんが佐光伸一さんに、副会長は遠藤道子  
さんが小笠原正明さんに交代、遠藤道子さんは  
顧問に就任、学生料金の会費 1,500 円を設定、  
北海道大学高等教育機能開発総合センター)  
4.8 POLE 第 57 号発行  
4.22 〈第 49 回例会〉ポーランド映画上映会:クシシュト  
フ・ケシロフスキ監督「ふたりのベロニカ」(か  
での2・7)参加者約 20 人  
7.16 〈第 50 回例会〉ポーランド料理講習会(講師:エデ  
ィータ・ジェブカさん、札幌エルプラザ4F札幌市  
男女共同参画センター調理実習室)参加者 21 人、  
うちポーランド人2人  
9.22 POLE 第 58 号発行  
12.2 〈第 19 回総会&懇親会〉(かでの2・7)

## 2006年

- 7.6 第三代会長・灰谷慶三さん逝去\*  
9.22 POLE 第 59 号発行  
11.4 〈第 50-2 回例会〉秋の午後のショパンコンサート  
(お話:三浦洋さん、ピアノ演奏:高橋健一郎さん、

安藤むつみさん、渡辺卓さん、井関楽器ホール)  
入場者約 80 人

- 11.16 運営委員会(北海道情報大学サテライト)  
11.24 〈第 20 回総会&懇親会〉(会長:故灰谷慶三さん  
の後任に安藤厚さん、北海道情報大学サテライト)  
懇親会参加者 25 人、うちポーランド人6人  
12.23 〈第 51 回例会〉映画「敬愛なるベートーヴェン」上  
映会(お話:三浦洋さん、協賛:シアターキノ)入  
場者約 100 人

## 2007年

- 1.31 POLE 第 60 号発行  
2.17 〈第 52 回例会〉ポーランド料理教室〜デザート篇  
(講師:エディータ・ジェブカさん、札幌エルプラザ  
4F調理実習室)参加者 18 人  
4.26 2007 年度第1回運営委員会  
6.19 POLE 第 61 号発行  
7.1 〈第 52-2 回例会〉「ポーランドの寺山修司」(プロ  
デュース:霜田千代磨さん)【第2部】留学生による  
ポーランド詩の朗読、ポーランド詩の日本語訳朗  
読(ドラマシアターどもIV:江別市)入場者約 80 人  
9.14 〈後援〉2台のピアノによるスラブ音楽のタベ〜ロシ  
ア・ポーランド・チェコの名曲を集めて(ピアノ演奏:  
高橋健一郎さんほか、札幌サンプラザホール)  
9.10 POLE 第 62 号発行  
9.22 〈後援〉日本ポーランド国交回復 50 周年記念 NPO  
法人まざるか北海道チャリティコンサート(ピアノ演  
奏:遠藤都子さんほか、遠藤道子記念音楽館)  
11.28 〈第 21 回総会&懇親会〉(北海道情報大学サテラ  
イト)

## 2008年

- 2.7 2008 年度第1回運営委員会  
5.17 創立 20 周年記念ピアノコンサート(札幌コンサ  
ートホール Kitara 小ホール)入場者 365 人  
6.16 2008 年度第2回運営委員会  
6.20 POLE 第 63 号発行  
7.26 〈第 53 回例会〉ポーランドの過去と現在(お話:ラ  
ファウ・ジェブカさん、北梅道大学クラーク会館3  
階国際文化交流活動室)参加者約 30 人  
10.27 2009 年度第1回運営委員会  
11.28 〈第 22 回総会&懇親会〉(かでの2・7)

## 2009年

- 2.7 〈第 54 回例会〉アンジェイ・ワイダ「カティンの森」  
上映会(ゲスト:二等書記官(当時)ラドスワフ・ティ  
シキエヴィチさん、かでの2・7)参加者約 50 人  
3.1 POLE 第 64 号発行

- 5.29 〈主催〉ピアノコンサート「ショパン、リヤードフなどを中心に」(札幌サンプラザコンサートホール)
- 7.19 第二代会長・谷本一之さん逝去\*
- 8.27 POLE 第 65 号発行
- 11.27 〈第 23 回総会&懇親会〉(総会の前に運営委員会を開催、かでの2・7)参加者:会員 15 人+在札幌ポーランド人およびその家族約 20 人
- 12.30 POLE 第 66 号発行

## 2010 年

- 2.5-7 〈共催〉「ポーランド in 北海道」共催:駐日ポーランド共和国大使館&本協会(以下の3件に参加)
- 2.5 「ポーランド・デー in 札幌」(シェラトンホテル札幌)  
主催:在日ポーランド商工会議所、後援:駐日ポーランド共和国大使館ほか\*
- 2.6 ピアノコンサート"ショパン in Hokkaido"~ショパン生誕 200 年を記念して(出演:(ピアノ)坂田朋優さんほか、(ソプラノ)松井亜樹さん、ザ・ルーテルホール)参加者約 200 人
- 2.6 映画「ニキフォルー知られざる天才画家の肖像」上映会(シアターキノ)参加者約 100 人
- 6.18 〈主催〉「ショパン生誕 200 年記念」コンサート(札幌サンプラザコンサートホール)入場者約 500 人
- 9.1 POLE 第 67 号発行
- 10.25 2011 年度第1回運営委員会
- 10.31 〈第 24 回総会&懇親会〉(副会長に霜田千代磨さんが就任、かでの2・7)参加者約 30 人
- 11.29 2011 年度第2回運営委員会(札幌エルプラザ2F 札幌市市民活動サポートセンター会議コーナー)

## 2011 年

- 1.24 2011 年度第3回運営委員会(札幌エルプラザ2F 会議コーナー)
- 2.1 POLE 第 68 号発行
- 3.5 〈後援〉松井亜樹ソプラノリサイタル「スラブ音楽のタベ」(ザ・ルーテルホール)
- 4.1 POLE 第 69 号発行
- 4.4 2011 年度第4回運営委員会(札幌エルプラザ2F 会議コーナー)
- 4.16-17 〈第 55 回例会〉ポーランド現代映画セレクション 2004-2009(北海道大学学術交流会館)入場者のべ約 600 人
- 5.20 POLE 第 70 号発行
- 5.30 2011 年度第5回運営委員会(札幌エルプラザ4F 男女共同参画研究室2)
- 6.4 〈主催〉ピアノコンサート「ショパン、パデレフスキ、モシュコフスキの作品を中心に」(札幌サンプラザホール)入場者約 100 人

- 6.5 〈第 56 回例会〉ドミニカ・ヤキモヴィチ=ブヴァシュチク領事来札記念上映会「ショパンのワルシャワ」、「フレデリック 2010」、参加者 25 人、ポーランド人「水曜昼食会」500 回記念パーティ(札幌全日空ホテル、主催:駐日ポーランド共和国大使館&在北海道ポーランド人会)参加者約 50 人、うちポーランド人 29 人\*
- 6.18 〈第 57 回例会〉ポーランド文学作品朗読会「午後のポエジア」(1)(北海道大学クラーク会館3F 国際文化交流活動室)参加者 37 人
- 9.1 POLE 第 71 号発行
- 10.1-2 〈第 58 回例会〉第3回ポ文協修学旅行~池田町ワイン祭り(池田町「まきばの家」泊)参加者5人
- 10.7 佐光事務局長、氏間運営委員、駐日ポーランド共和国大使館を訪問\*
- 10.11-25 〈後援〉伊那谷のタオイスト加島祥造詩画展(群来陣[旧白鳥番屋]:小樽市祝津)
- 10.13 2012 年度第1回運営委員会(札幌エルプラザ4F 男女共同参画研究室1)
- 10.21 〈第 25 回総会&懇親会〉(北海道大学クラーク会館3階国際文化交流活動室)参加者:総会 15 人、懇親会 36 人
- 11.15 POLE 第 72 号発行
- 11.24 初代副会長・遠藤道子さん逝去\*
- 11.27 〈後援〉アレンスキー生誕 150 年記念シンポジウム&コンサート(札幌サンプラザホール)
- 11.28 2012 年度第2回運営委員会(札幌エルプラザ2F 会議コーナー)
- 12.11 遠藤道子先生音楽葬(遠藤道子記念音楽館)\*

## 2012 年

- 1.28 2012 年度第3回運営委員会(札幌エルプラザ2F 会議コーナー)、新年会
- 2.25 POLE 第 73 号発行
- 3.26 2012 年度第4回運営委員会(札幌エルプラザ2F 札幌市消費者センター消費者サロン 1)
- 3.31 〈第 59 回例会〉講演会「樺太のポーランド人の軌跡—彼らはどこから来て、如何に生き、どこへ帰ったのか」(講師:尾形芳秀さん、かでの2・7)参加者 27 人(会員 10 人、一般 17 人)
- 4.20 POLE 第 74 号発行
- 5.5-6 〈第 60 回例会〉ポーランド映画セレクション II(北海道大学学術交流会館)入場者のべ 529 人
- 5.12 〈第 61 回例会〉創立 25 周年ピアノコンサート(札幌コンサートホール Kitara 小ホール)入場者 281 人
- 6.8 POLE 第 75 号発行
- 6.11 〈後援〉安田文子&ワルシャワデュオ~ワルシャワ・フィルコンサートマスターを迎えてのピアノトリ

- オ(札幌コンサートホール Kitara 小ホール)
- 6.16 〈第 62 回例会〉朗読会「午後のポエジア」(2) (北梅道大学クラーク会館3階国際文化交流活動室) 参加者約 40 人
- 7.23 2012 年度第5回運営委員会(札幌エルプラザ2F 会議コーナー)
- 8.27 2012 年度第6回運営委員会(札幌エルプラザ2F 消費者サロン2)
- 9.14 〈後援〉林靖子先生追悼演奏会(札幌サンプラザホール)
- 10.1 2013 年度第1回運営委員会(札幌エルプラザ2F 会議コーナー)
- 10.1 POLE第 76 号発行
- 10.6 〈第15代〉札幌コンサートホール専属オルガニスト マリア・マグダレナ・カチョル デビューリサイタル(札幌コンサートホール Kitara 大ホール) \*
- 11.3 〈第 26 回総会&創立 25 周年記念祝賀会〉(ニューオオタニイン札幌)参加者 53 人、うち会員その他 30 人、ポーランド人大人 17 人、子供6人
- 11.17 〈第 63 回例会〉レクチャー・コンサート「21 世紀のショパン像～新書簡集出版を祝って」(講演:三浦洋さん、ピアノ演奏:坂田朋優さん、安田文子さん、高橋健一郎さん、北梅道大学情報教育館3階スタジオ型多目的中講義室)参加者約 80 人
- 11.20 〈後援〉"コルチャック先生"講演と学びのタペ&パネル展(講師:W.タイス先生・塚本智宏さん、映画「コルチャック先生」上映、札幌エルプラザ3F 札幌市男女共同参画センターホール)
- 12.1 POLE第 77 号発行
- 12.4 〈第 64 回例会〉ジャズライブ de ポランスキー(出演者:Sza/Za [シャ/ザ=パヴェウ・シャムブルスキとパトリック・ザクロツキ]、札幌プラザ2・5)入場者約 100 人

## 2013 年

- 3.15 〈後援〉松井亜樹ソプラノリサイタル(平成 24 年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業「新進芸術家育成プロジェクトリサイタル・シリーズ」)(札幌コンサートホール Kitara 小ホール)
- 5.7 2013 年度第2回運営委員会(札幌エルプラザ2F 会議コーナー)
- 5.10 POLE第 78 号発行
- 6.8-9 〈第 65 回例会〉ポーランド映画セレクションⅢ(札幌プラザ2・5)入場者のべ約 400 人
- 6.24 2013 年度第3回運営委員会(札幌エルプラザ2F 会議コーナー)
- 6.29 〈第 66 回例会〉朗読会「午後のポエジア」(3) (北梅道大学クラーク会館3F国際文化交流活動室)

参加者約 50 人

- 8.1 POLE第 79 号発行
- 8.16 〈第67回例会〉マリア=マグダレナ・カチョルオルガンリサイタル with 松井亜樹～オルガンとソプラノでつづるスラブ音楽(北梅道大学クラーク会館講堂)参加者約 400 人
- 8.21 2013 年度第4回運営委員会(札幌エルプラザ2F 会議コーナー)
- 9.27 2013 年度第5回運営委員会(札幌エルプラザ2F 会議コーナー)
- 9.30 POLE第 80 号発行
- 10.15 〈後援〉ヴィルト・ルトスワフスキ生誕 100 周年記念講演&演奏会～ズビグニェフ・スコヴロン教授を迎えて「ポーランド楽派を聴く」ショパンとルトスワフスキ(講演・対談:ズビグニェフ・スコヴロン教授、三浦洋さん、演奏:(ソプラノ)松井亜樹さん、(ピアノ)高橋健一郎さん、坂田朋優さん、川染雅嗣さん、谷本聡子さん、(クラリネット)菊地秀夫さん、札幌大谷学園百周年記念館同窓会ホール)入場者約 80 人
- 10.19 ブロニスワフ・ピウスツキ記念碑除幕式(白老・アイヌ民族博物館) \*
- 10.20 〈共催〉記念セミナー「ポーランドのアイヌ研究者ピウスツキの仕事ー白老における記念碑建立に寄せて」主催:本会、北海道大学スラブ研究センター;共催:グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成」;協力:駐日ポーランド大使館、ポーランド広報文化センター(北海道大学学術交流会館講堂)参加者約 200 人
- 11.8 〈第 27 回総会&懇親会〉(北梅道大学クラーク会館3F国際文化交流活動室)参加者:総会 15 人、懇親会 28 人(日本人 17、ポーランド人 11 人)

## 2014 年

- 3.20 POLE第 81 号発行
- 4.1 2014 年度第1回運営委員会(札幌エルプラザ2F 会議コーナー)、ポーランド広報文化センター・ブワシュチャク新所長歓迎会(山わさび)
- 5.15 POLE第 82 号発行
- 5.15 ポーランド共和国「憲法の日」記念レセプション(東京・ポーランド共和国大使館) \*
- 5.28 2014 年度第2回運営委員会/ポーレ編集委員会(札幌エルプラザ2F 会議コーナー)
- 6.5-8 〈後援〉北大祭におけるポーランド留学生の来店(テント)「共産主義崩壊から25年」記念、主催:北海道大学ポーランド人留学生会;協賛:ポーランド広報文化センター(北海道大学総合博物館前)
- 6.14 〈第 68 回例会〉朗読会「午後のポエジア」(4) (北

- 梅道大学クラーク会館3F国際文化交流活動室)  
参加者約 80 人
- 6.23 講演:伊東孝之「政治変動と国際環境ーポーランド(1943-48年)とウクライナ(2013-14年)」(北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター)\*
- 6.28 〈第 69 回特別例会〉権太時代に生きたポーランド人〜彼らはどこから来て、いかに生き、どこへ帰ったのか(講師:尾形芳秀さん、東京・ポーランド共和国大使館)参加者約 50 人
- 7.9 第1回記念誌編集委員会(札幌エルプラザ2F会議コーナー)
- 8.25 2014 年度第3回運営委員会(札幌エルプラザ2F会議コーナー)
- 9.15 POLE第 83 号発行
- 10.6 2015 年度第1回運営委員会、ポーレ編集委員会(札幌エルプラザ2F会議コーナー)
- 10.12-13〈後援〉さっぽろオペラ祭 2014・北海道二期会創立 50 周年記念 オペラ「ショパン」(札幌市教育文化会館小ホール)
- 10.27 第2回記念誌編集委員会(札幌エルプラザ2F消費者サロン2)
- 10.27-11.9 〈第 70 回例会〉ヤン・カルスキ生誕 100 周年記念展示会「私はホロコーストを見たーヤン・カルスキの黙殺された証言」(札幌エルプラザ2F札幌市市民活動サポートセンター交流広場)記帳約 30 人
- 10.31 〈第 28 回総会&懇親会〉(北梅道大学クラーク会館3F国際文化交流活動室)参加者:総会 17 人、懇親会日本人 17 人、ポーランド人 21 人
- 11.7-10 〈協力〉ポーランドで生まれたアートマイムの祭典“サイレンス・オブ・ザ・ボディー/ *Milczenie Ciała* /沈黙する身体ーアートマイム”ワルシャワー東京 日本公演(公開ワークショップ+プレゼンテーション+上演、総合芸術監督:ステファン・ニジャウコフスキ、出演:児真順子ほか、東京・シアターX(カイ))
- 11.8 〈後援〉遠藤郁子デビュー 50 周年記念ピアノリサイタル「北海道〜パリ〜そしてポーランド」(札幌コンサートホール *Kitara* 小ホール)
- 12.9 第3回記念誌編集委員会(札幌エルプラザ2F会議コーナー)

## 北海道ポーランド文化協会の皆さま！会誌「ポーレ」読者の皆さま！

創立 25 周年記念誌ポーレのご発刊、誠にありがとうございます。

定期的に書物を刊行するのは簡単なことではございません。長年にわたり貴誌のご編集・ご刊行に携わりご尽力された全ての皆さまの情熱と努力に対し、心から敬意を表します。

貴誌「ポーレ」は、音楽・映画・文学・語学などあらゆる分野を通じて北海道におけるポーランド文化の普及を図るのみならず、ポーランドの歴史と今日のポーランドに関する情報の源としての役割を担っています。日本人とポーランド人の交流がより深まり発展している現代において、日本の北部における“ポーランド文化大使”的存在であると言えるでしょう。

ポーランド広報文化センターは「ポーレ」の役割を高く評価するとともに、貴誌の刊行に際し、これからも出来る限りのご協力をさせていただきたく所存です。

ポーランド情報誌の金字塔として、貴誌が今後とも良質な情報を提供されること、そしてご関係者の皆さまのお幸せと益々のご活躍をお祈り申し上げます。

敬意と感謝の意を込めてー

ポーランド広報文化センター

所長 ミロスワフ・ブワシチャック



---

### あとがき

東京オリンピックの年社用で初めてヨーロッパへ、アンカレッジ・東ベルリン経由で先ずワルシャワへ。クラクフ・ビドゴシチなど各所で多くの方にお世話になり、なぜか忘れられない親近感のあるポーランドでした。

それから二十数年、世界情勢変化の中、今はどうなっているかと気になっていたところ、道新に北海道ポーランド文化協会発足の記事が。早速入会、お蔭様で会員との親睦や新しい情報に接し続けることが出来ました。今回の記念誌刊行に当たり、ご尽力ご苦勞された編集担当委員皆様に対し、心から深甚のお礼を申し上げます。(富山信夫)

わたくしと当協会との交流は2つの時期にわかれます。当時事務局長だった小笠原副会長の職場の秘書職にいて手伝うことになった 1997～2003年(POLE 第39～53号)。その後、佐光事務局長のもとで POLE 第67号(2010年9月)から編集作業を再開いたしました。このたびは協会の魅力が満載の記念誌発行と相成りまして、感激のいたりでございます。(氏間多伊子)

二度の記念誌発行に携わり、会を取り巻く環境が大きく変わったことを感じます。

設立から15周年まで役員としてご活躍くださった今村初代会長をはじめ、遠藤道子先生、灰谷先生、吉田先生、相馬先生、谷本先生、國田先生が鬼籍に入られました。一見厳しく見える今村先生の会合での温顔、「いつもご苦勞様」と女性数名をご自宅に招いてくださった遠藤先生のお心遣い…。会員は多くはありませんでしたが、温かな雰囲気だったと記憶しています。今は会員も増え、大使館ともつながりを持つ会に成長しました。

会員同士、また、ポーランド人との相互理解のために「ポーレ」の果たす役割は大きいと思います。会の活動の記録をまとめた25周年記念誌の発行を大変うれしく思います。(小林暁子)

いよいよ記念誌が発行されますね。よくこれまで続けてきたと感慨深いものがあります。活動を続けていくには、会員が直接参加できる企画、例えば「午後のポエジア」のように、いろいろな人をとり込んで一緒にできるものなどが必要かなと考えます。

POLE がカラーになり、読み易く親しめるものになりました。この会が長く続きますように。(齋田道子)

2003年に発行された15周年記念誌と、こうしてできあがった25周年記念誌の版下とを見比べて、いろいろ思うところがあります。2003年6月に初代事務局長だった吉田宏先生が亡くなられ、どうしたらよいかわからず悩んでいました。その年の12月に三浦先生、安藤先生のご努力で刊行された15周年記念誌にはおおいに勇気づけられたものです。そして今回の25周年記念誌です。前回とは次元の違う内容の豊富さと水準の高さに感銘を受けました。

改めてポーランドに魅力を感じるとともに、こうして四半世紀ものあいだ、たいまつをともし続けた人々のことを思い浮かべました。(小笠原正明)

今回改めてPOLEの今までの原稿を読ませて頂きましたが、本当にその内容のバラエティーの豊かさ、内容の深さを感じました。今後も皆さんで引き続き様々な企画を立てて末長くこの協会の活動が発展してゆくことを願ってやみません。(小林美保)

POLEの記念誌は在北海道ポーランド人にとっては重要なものです。私たちが日本にきて感じたこと、日本人がポーランドにきて感じたことを比べると興味深くて、北海道ポーランド文化協会の活動に関わってきて、両国のつながりをつくっていく記録は宝物だと考えています。どんなイベントがあって、どなたがどんな活動をしたかという記事も載っていて、新たな会員にとっては今後の活動のための参考書になると思います。(ジエプカ・ラファウ)

このたび、25周年記念誌編集委員として名をつらねましたが、実務的な作業に参加することができず、心苦しく思います。ただ一つだけ会誌POLEが長いこと縦書きであったのを横書きにしてみることを提案して、それが採用され、地名、人名などが目で見えやすくなったのを感じて嬉しく思います。25周年と一言でいっても、多くの先輩がたがその時代時代を熱い心で、謙虚に伝えて紡がれた壮大な歴史であることに気づきました。これからはPOLEが続いていくことを願っております。(栗原朋友子)

ポーランドへの関心というつながりで、専門や年

代の違いを越えてこれだけたくさんの人たちが積み上げてきたポ文協の歴史に感銘を受けます。これまであまり会の活動には貢献できませんでしたが、微力ながらお役に立てるよう努めたいと思います。30周年、40周年といった節目をこのように迎えられるとよいですね。(越野剛)

思い出多い創立15周年記念誌の刊行から、今度は25周年記念誌の発行へ。10年離れて2人目の子どもを授かったような喜びを静かにかみしめつつ、この10年間に起こった二つの奇跡を想います。一つ目は、2009年にポーランドで発行された新たなショパン全書簡集第一巻の邦訳が2012年に刊行されたこと。そして第二に、ポーランド人のオルガニスト、マリア・マグダレナ・カチョルさんが2012年9月から2013年8月まで札幌コンサートホール「キタラ」の第15代専属オルガニストをつとめたこと。どちらも、私が生きているうちに起こるとは予想していなかった慶事です。そして、今年2015年はショパン全書簡集第二巻のポーランド語版刊行が予定されている年ですし、カチョルさんの方は素晴らしいCDを先頃リリースしました。

3年後はポーランドの独立回復100周年に当たりますから、今度はどんな素敵なことが起こるのか、今から楽しみにしている私です。(三浦洋)

阿呆のウンチク——「稽古とは一(イチ)より出て、十(ジュウ)を知り、十(ジュウ)より戻る、元(もと)のその一(いち)」といふ言葉を聞いた事がある。

リセットは常に「ZERO」である。そして行動あるのみだ。ポーランドの何処かに「青い花」を探しに行きたい。これからの10年は“遊び”を追求して行きたい。“遊行期”だ。その意味で、この冊子が地図の役割をはたしてくれることを確信してある。(霜田千代麿)

この度、「15周年記念誌」に次いで「25周年記念誌」が発行の運びとなりました。この10年は以前にもまして内容の濃いものとなったことはご同慶に堪えません。これも会員のみなさんのポーランド文化へ寄せる熱い思いが込められている証左でありましょう。この発刊はこの10年の活動の記録として長く記憶に留められ、そして、これからの10年のあるべき姿を教えてください。(尾形芳秀)

# POLE

北海道ポーランド文化協会創立25周年記念誌  
2015.8.25

発行 安藤厚（会長）

北海道ポーランド文化協会

〒006-0006

札幌市手稲区西宮の沢6条1丁目16-1-210

佐光伸一（事務局長）

TEL/ FAX 011-215-6696

<http://hokkaido-poland.com/>

協力



記念誌編集委員

安藤 厚（委員長）

氏間多伊子

尾形 芳秀

越野 剛

小林 美保

佐々木保子

霜田千代麿

表紙デザイン

國田祐作

小笠原正明

栗原朋友子

小林 暁子

斎田 道子

佐光 伸一

ラファウ・ジェプカ

印刷 札幌大同印刷（株）